様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　４ 月 ２８ 日現在

機関番号：３２６１５
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2019
課題番号：１７Ｋ０２２６３

研究課題名（和文）ピューリタニズムの寛容思想とその現代的展開

研究課題名（英文）Puritan Theories of Toleration: Their History and Modern Appication

研究代表者
森本　あんり（Morimoto, Anri）

国際基督教大学・教養学部・教授

研究者番号：１０３１７３４９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,500,000円

研究成果の概要（和文）：「日本ピューリタニズム学会」の会長・前会長・理事を務める三者による共同研究で、ピューリタニズムの寛容思想とその現代的意義を複数視野から立体的に問うた。イスラームの世界的進展により、公共空間の非宗教化という近代啓蒙の理念が疑問視されるようになっている今日、本研究はピューリタニズムが辿った宗教内在的な寛容論を再検討することで、異なる思想系を橋渡しする対話のための土台を作る作業を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義
一般に不寛容と見なされてきた宗教には、それぞれの伝統の内部に他者への寛容を要請する内在的な動機が含まれている。異なる思想や主義主張の交錯がますます盛んになる現代社会では、外から寛容の要求を押し付けるのではなく、その体系や伝統にもともと内在している対話や交渉の能力を発展させ顕在化させることで、平和共存と相互理解の可能性を高めることができる。

研究成果の概要（英文）：The project is a collaboration of three scholars who have leading roles in a major academic society on Puritan studies in Japan. The members of the project inquired, with the help of prominent researchers on Islamic studies, inquired into the development of the Puritan concept of toleration to make it serviceable in the 21st-century discussion on religion in the public sphere. It resulted in laying the groundwork for inter-religious dialogue by nurturing the conceptions of toleration inherent in and extracted from within each tradition.

研究分野：思想史

キーワード：寛容　ピューリタニズム　イスラーム思想　宗教間対話　カトリシズム　共和思想

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

今日のピューリタニズム研究は、昔日とは大きく異なった環境のもとに置かれている。従来の研究は、アメリカとイギリスの両極で別々に進められる一国史的な研究で、しばしばホイッグ的な進歩史観にくるまれていたが、近年はその両者を環大西洋システムの中で複眼的かつ批判的に見ることが研究動向の主流となっている。それでも、欧米の研究者の視点は英米史に偏りがちで、ピューリタニズムが辿った歴史を環大西洋域外部との思想史的な連関や比較へと拡げることには消極的であった。他方、日本国内の研究はピューリタニズムをもっぱらウェーバーの近代化理論との関係に限局して論じてきており、現代社会が直面する宗教的な自己主張の相克や公共空間における宗教の位置づけ自体を問う力学を生み出すには至っていない、というのが実情であった。

２．研究の目的

本研究の目的は、ピューリタニズムの寛容思想とその現代的意義を複数視野から立体的に問うことであった。グローバル化の伸展に伴う現代イスラームの世界的拡散は、公共空間の非宗教化という近代啓蒙のプロジェクトに重大な問いを投げかけているが、実はこの問いは 17 世紀に発した英米のピューリタニズムが辿った困難な対話の過程ときわめて相似的である。本研究は、これまで宗教的不寛容と見なされてきたピューリタニズムが、多くの拮抗する同時代的な思想勢力との折衝を経て変容し、世俗的要請からではなくまさにその宗教的コミットメントのゆえに寛容や良心の自由などの原理を生み出してきたことを環大西洋的な思想史の枠組みで検証し、過激化する今日の宗教的対立に新たな参照枠を提供することを目的とする。

本研究は、英米のピューリタニズム思想をネットワーク論やグローバル・ヒストリーを視界に入れつつ解釈し、環大西洋域からさらにアジアや中東への架橋を模索する考察を展開することを目指す。本研究が計画するイスラーム研究者との共同研究は、現代社会が喫緊に必要としている宗教間の相互理解と相互尊重を深め、国内外の緊張緩和に寄与することが期待できる。歴史研究にとどまらない現代的な問いへの展開は、本研究の学術的な特色であり独創性である。

３．研究の方法

ピューリタニズムとイスラームの寛容を歴史と現代において理解するには、国内での研究や討論とともに、イスラーム社会における寛容の実態を理解するための海外視察が不可欠である。計画では 2 年目に行う予定であったこの視察を、前倒しで初年度に実施することになった。これは、「グローバルリベラルアーツ連盟」(GLAA) の大学間連携会議がアル・アハワーン大学（モロッコ）で開催されることになり、当初から出張目的地の一つに含まれていた同大学を訪問する機会としてこれを利用することとしたためである。

同大学は、イスラーム教をベースにしたリベラルアーツ大学であるが、学内には学生の多様な宗教的背景に配慮して、キリスト教徒向けのチャプレンが雇用されており、学期中はキリスト教の集会も定期的にもたれている。こうした実態を伝統的なイスラーム寛容論と重ね合わせて考察することができ、非常に有意義であった。

また、同大学学長の好意により、隣接都市にある世界最古の大学カラウィーン・モスクを訪ねることができた。同モスクには異教徒が足を踏み入れることは本来できないが、モロッコのイスラーム聖省の正式な許可を得た上で入堂し、その最高位にあるイマームの解説を聞くことができた。世界遺産となっているこの中世都市の寛容の形態を歴史的な背景から概観する貴重な機会であった。

本研究が企図する成果を生むためには、近代革命史や社会思想史を含む統合的な視点をもってピューリタニズムをアジアから逆照射することも必要である。もとよりこれは研究代表者単独では不可能なので、研究分担者らと密接に共同研究が進められた。寛容や政教関係に関するこれらの研究研究の成果は、単に関係者の間での交流に留まらず、広く国内外に共有されなければならない。

幸い、研究代表者が所属する国際基督教大学には、2013 年度科研費の成果により、ピューリタニズム研究に関する「エドワーズ・グローバルセンター」が設置されている。そのグローバルリンクは、イェール大学を中心とする世界 7 大学と連携しているので、英語による研究成果の国際的な発信には、このリンクを活用することができた。日本語論文の発表には、「日本ピューリタニズム学会」「初期アメリカ学会」「日本イギリス哲学会」などの関連学会を活用した。

４．研究成果

2018 年 6 月 23 日には、国際基督教大学において「日本ピューリタニズム学会」年次研究大会を開催し、シンポジウム「寛容論をめぐるピューリタニズムとイスラームとの対話」を行って本課題の研究を深めた。同シンポジウムでは、研究分担者の竹澤が司会を務め、研究代表者の森本が「ピューリタニズムに見る寛容論の内発的変遷と現代イスラーム神学への問いかけ」という題で報告を行った。シンポジウムの他の報告は、塩尻和子（筑波大学名誉教授）による「公共宗教としてみたイスラームの世俗性と普遍性――相互扶助の原理と寛容論」と袴田康裕（神戸改革派神学校）による「長老主義教会における寛容論の展開」であった。これらの成果については、『ピューリタニズム研究』第 13 号に掲載された。

2019 年には、「日本ピューリタニズム学会」の第 14 回年次大会を 6 月 8 日に聖学院大学において開催し、「カトリシズムとピューリタニズムの対話」という主題を掲げたシンポジウムにおいて、3 名の発表者を招いて討論と意見交換を行い、異なった宗教間の寛容について知見を得た。その成果は、2020 年 3 月に発行された学会誌『ピューリタニズム研究』第 14 号にて公開された。

研究代表者の森本は、10 月にはイェール大学において開催されたジョナサン・エドワーズ国際大会に出席し、"The Passions and the Interests: An Edwardsean Understanding of Populism"という題の招待講演を行い、18 世紀ピューリタニズムの視角から現代の政治世界を覆うポピュリズムを批判的に論じた。これも 2020 年中には公刊され、エドワーズ学会を通して国際的なピューリタニズム研究に発信される予定である。

研究分担者の岩井は、16 世紀イングランドの歴史を継続的に研究しており、2018 年 9 月 12-15 日には、韓国・大邱の慶北大学校において開催された日英韓歴史家会議(The1st British-East Asian Conference of Historians in September 2018)に参加し、その第三部会での司会とコメンテイターをつとめた。また、歴史教育論と 17 世紀イングランド史を継続的に研究しており、前者では『日本歴史学協会年報』34 号と『学術の動向』24 巻に論文が

掲載されたほか、国際的な歴史教育学会(2019 年 8 月 6 日)で発表した。後者では、『静岡大学人文論集』70 号の 1 にピューリタン革命に関する論文を発表した。

研究分担者の竹澤は、イスラームとピューリタニズム、またカトリック思想とピューリタニズムなどの間の対話を寛容の観点から理解するシンポジウムを企画開催し、学会大会や研究大会で継続的にシンポジウムの司会を務めた。また、日本ピューリタニズム学会関西研究会では、森本あんり『異端の時代』（岩波書店）の合評会を企画し、スコットランド啓蒙思想における宗教の位置づけなどをめぐる研究の発信者となった。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計11件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　6件）

１．著者名 森本あんり	４．巻 13
２．論文標題 ピューリタニズムに見る寛容論の内発的変遷と現代イスラーム神学への問いかけ	５．発行年 2019年
３．雑誌名 日本ピューリタニズム学会編『ピューリタニズム研究』	６．最初と最後の頁 13-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 森本あんり	４．巻 29
２．論文標題 ハーシュマンからチキンマンへ――移動の自由とポピュリズム	５．発行年 2019年
３．雑誌名 松山大学総合研究所編『地域研究ジャーナル』	６．最初と最後の頁 6-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 森本あんり	４．巻 929
２．論文標題 政治的神話と社会的呪術――なぜ人はファクトよりフェイクに惹きつけられるのか	５．発行年 2020年
３．雑誌名 世界	６．最初と最後の頁 109-117
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 岩井淳・山田一雄	４．巻 70-1
２．論文標題 ジョン・リルバーンの迫害体験と宗教思想	５．発行年 2019年
３．雑誌名 静岡大学人文論集	６．最初と最後の頁 109-138
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 岩井淳	4．巻 24
2．論文標題 世界史の視点から考える「歴史総合」	5．発行年 2019年
3．雑誌名 日本歴史学協会年報	6．最初と最後の頁 50-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Jun IWAI	4．巻 22
2．論文標題 The State of History Education in Local Universities: The Case of Shizuoka University	5．発行年 2020年
3．雑誌名 アジア太平洋論叢	6．最初と最後の頁 66-71
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 竹澤祐丈	4．巻 14
2．論文標題 シンポジウム　カトリシズムとピューリタニズムの対話―寛容論と歴史的実践から考える―趣旨説明	5．発行年 2020年
3．雑誌名 ピューリタニズム研究	6．最初と最後の頁 13-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 森本あんり	4．巻 42
2．論文標題 代替宗教としてのポピュリズム	5．発行年 2018年
3．雑誌名 社会思想史研究	6．最初と最後の頁 20-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 森本あんり・久保文明・巽孝之	4．巻 52
2．論文標題 トランプ政権下のアメリカ合衆国	5．発行年 2018年
3．雑誌名 アメリカ研究	6．最初と最後の頁 1-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 森本あんり	4．巻 冬号
2．論文標題 「真正の異端を求めて」、「権威の蝕――正統の復権は可能か」（連載最終回）	5．発行年 2017年
3．雑誌名 小説トリッパー	6．最初と最後の頁 164-180
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 森本あんり	4．巻 WebRonza
2．論文標題 「情念の宗教学から現代選挙をみる――トーテムとしてのトランプ野球帽」	5．発行年 2017年
3．雑誌名 朝日新聞	6．最初と最後の頁 10月31日
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計11件（うち招待講演　10件／うち国際学会　1件）

1．発表者名 Anri Morimoto
2．発表標題 The Passions and the Interests: An Edwardsean Understanding of Populism
3．学会等名 Yale & the International Jonathan Edwards Conference（招待講演）（国際学会）
4．発表年 2019年

１．発表者名 森本あんり
２．発表標題 Ｌ正統とＯ正統――キリスト教史からの批判的検証
３．学会等名 公開研究会『丸山眞男集 別集 第4巻 正統と異端一』合評会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 岩井淳
２．発表標題 イギリス革命から考える革命の連鎖史
３．学会等名 愛知県高等学校社会科研究会主催の講演会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Jun IWAI
２．発表標題 The Situation of Local Universities: The Case of Shizuoka University
３．学会等名 大阪大学佐治敬三メモリアルホール（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 岩井淳
２．発表標題 イギリス革命とフランス革命をつなぐ
３．学会等名 革命比較研究会
４．発表年 2019年

１．発表者名 森本あんり
２．発表標題 ハーシュマンからチキンマンへ――移動の自由とポピュリズム
３．学会等名 松山大学法学部創立30周年記念シンポジウム（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 森本あんり
２．発表標題 ピューリタニズムに見る寛容論の内発的変遷と現代イスラーム神学への問いかけ
３．学会等名 日本ピューリタニズム学会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 岩井淳
２．発表標題 「近代化」から考える「歴史総合」
３．学会等名 静岡歴史教育研究会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 岩井淳
２．発表標題 世界史の視点から見る「歴史総合」
３．学会等名 日本学術会議シンポジウム（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 岩井淳
２．発表標題 近代化と私たち　テキスト構想案　改訂版
３．学会等名 高等学校歴史教育研究会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 森本あんり
２．発表標題 「社会思想史における宗教」
３．学会等名 社会思想史学会シンポジウム（招待講演）
４．発表年 2017年

〔図書〕　計2件

１．著者名 森本 あんり	４．発行年 2019年
２．出版社 ＫＡＤＯＫＡＷＡ	５．総ページ数 240
３．書名 キリスト教でたどるアメリカ史	

１．著者名 森本 あんり	４．発行年 2018年
２．出版社 岩波書店	５．総ページ数 254
３．書名 異端の時代 ： 正統のかたちを求めて	

〔産業財産権〕

〔その他〕

ICU研究者情報データベース
https://researchers.icu.ac.jp/icuhp/KgApp?kojinId=100147
静岡大学教員データベース
https://tdb.shizuoka.ac.jp/RDB/public/Default2.aspx?id=10644&l=0
京都大学教育研究活動データベース
http://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/dH9oR

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	岩井　淳 (Iwai Jun) (70201944)	静岡大学・人文社会科学部・教授 (13801)	
研究分担者	竹澤　祐丈 (Takezawa Hiro) (60362571)	京都大学・経済学研究科・准教授 (14301)	